

佛説却温黄神咒經

聞如是 一時 佛遊王舍城竹林精舍 與四部
弟子大衆俱會 爲説經法 爾時 維耶離國
屬疫氣猛盛 嚇嚇 猶如熾火 死亡無數
無所歸趣 無方救療 於是 阿難長跪合掌
前白佛言 彼維耶離國 遭温氣疫毒 唯願世尊
説諸聖術 却枯毒疫 令得安穩 離衆苦患
佛告賢者阿難 汝當聽受之 有七鬼神
常吐毒氣 以害萬姓 若人得毒 頭痛寒熱
百節欲解 苦痛難言 人有知其名字者
毒不害人 是故吾今爲汝説之 阿難言
願欲聞之 佛言 若四輩弟子 欲稱鬼神名字之
時 當言 南無佛陀耶 南無達磨耶 南無僧伽耶
南無十方諸佛 南無諸菩薩摩訶薩 南無諸聖僧
南無咒師某甲 今我弟子 所説神咒 即從其願
如是神名 我今當説 沙羅佉 三説沙羅佉已
便説咒曰 夢多難鬼 阿佉尼鬼 尼佉尸鬼
阿佉那鬼 波羅尼鬼 阿毘羅鬼 波提犁鬼
佛言 是七鬼神咒 名字如是 若人熱病時
當呼七鬼神名字言 疾去 疾去 莫得久住 我
弟子身 令毒消滅 病速除愈 我弟子
今歸依三寶 燒香礼敬 行是諸佛所説神咒
若有鬼神 不隨諸佛教者 頭破作七分 如阿
梨樹枝 若人得病 一日二日三日 乃至七日
熱病煩悶 先咒神水 以與病者飲之 當三七遍
誦此咒經 疫毒五温之病 並皆消滅
若亦立門 書著氣病者 當額書七鬼神名字
復取五色縷線 各各結其名字 繫著門上

温黄を却けるための神呪を説く經典

仏弟子である私は、師匠の仏陀から次のように聞いた。あるとき仏陀は、
王舎城の竹林精舎に出かけ、弟子たちを集め説法をされた。その時、
維耶離国では疫病が大流行していて、その凄まじさは燃え盛る大火事のよ
うであつた。亡くなる人は数え切れず、逃げ場も治療するすべも無かつた。そ
の時、弟子の阿難は、膝をつき合掌して仏陀に「あの維耶離国では、疫病が
大流行しています。どうかあの疫病を封じ込め、多くの人々が苦痛から逃れ
られるいい方法をお教えください」と、お願いした。

仏陀は、阿難に「その疫病は、七人の鬼神がいて、常に毒(ウイルス)を
まき散らし、多くの人々を苦しめているのです。もし、人が毒(ウイルス)に
感染すると頭痛がして寒気や高熱により身体の節々に激痛が走り、言葉に出来
ないような苦しみがある。しかし、その鬼神の名前を唱えたなら、毒(ウイル
ス)は、自分の正体を見破られたと思い危害を加えなくなるだろう。貴方たち
に、その鬼神の名前を教えましょう」と言った。

阿難は、「どうかその鬼神の名前をお聞かせください」と言った。

仏陀は、「もし貴方たちが、鬼神の名前を呼んで鬼神を鎮めようとする時は、

まず次のように唱えなさい」

南無仏陀耶(仏に帰依します) 南無達磨耶(法に帰依します)

南無僧伽耶(僧に帰依します) 南無十方諸仏(十方の仏に帰依します)

南無諸菩薩摩訶薩(諸の菩薩、摩訶薩に帰依します)

南無諸聖僧(諸の聖僧に帰依します) 南無呪師(呪師に帰依します)

「これから、貴方たちに教える神呪は、その帰依する気持ちと強い願いによつ
て初めて効力を發揮するのです。そして次にこう唱えなさい」

沙羅佉(追い払いたまえ) 沙羅佉(追い払いたまえ) 沙羅佉(追い払いた

まえ)

続いて仏陀は次のように呪文を唱えた。

ムトナンキー アギヤニキー ニーギヤンキー

夢多難鬼 阿佉尼鬼 尼佉尸鬼

アークヤナキー ハラニキー アピラキー

阿佉那鬼 波羅尼鬼 阿毘羅鬼

ハータイリーキー
波提犁鬼

「これが七鬼神の名前で、呪文でもあるのです。もし、疫病に遭遇した時は、必
ず七鬼神の名前を呼んだあと、『疾去 疾去(直ぐ立ち去れ、直ぐ立ち去れ) 莫
得久住(長く留まるな)』と唱えなさい。そうすると、感染した人々の身体から
は、毒(ウイルス)が消滅し、病氣も直ぐに治癒するでしょう。

我弟子たちよ、今、仏・法・僧の三宝に帰依し、香を焼き、心から拝礼して、この
諸仏が説いた神呪を唱えなさい。もし、鬼神が諸仏の教えに従わないならば、鬼
神の頭が割れて七つに分裂し、阿梨樹の枝の先に咲く花のようになってしまふこ
とだろう。もし、人が病になつて一日・二日・三日ないし七日間にわたつて熱病に
苦しみがくようなら、まず、清らかな水に呪いして、それを病人に与えて飲ま
せなさい。そして、必ず三七遍繰り返して呪経を唱えれば、病毒や疫病は
全て消滅するでしょう。

もし、紙や木材を使った簡易の門を立てて疫病の名前を書き記す場合には、
必ず七鬼神の名前を額に書きなさい。さらに、青・赤・白・黒・黄の五色の絹糸を
取つて、鬼神の名前を記した額にそれぞれ結びつけて門の上につなげるならば、

大吉祥也 若能勤誦此經 專心受持

齋戒不喫熏辛 誦此七鬼神名字 温鬼永斷

不過門戶 自進至患家 鬼見皆走

一身永不染天行 若能專心勸人書寫受持

讀誦此經 銷殃却害無事不吉 若人不能誦

得竹筒盛 安門戶上 温鬼不敢過門 亦得

延年養壽 大吉祥也 阿難叉手白佛言

當何名此經 云何奉持 佛言 此經名

爲却温神咒 佛說如是 天龍鬼神 一切大衆

門咒勸喜 作禮奉行

大いにめでたい効果があるだろう。この経をしっかりと唱えて、一途に受持し、齋戒して匂いの強い野菜や辛味のある野菜を口にせず、この七鬼神の名前を唱えることができたなら、疫病をもたらす鬼を永遠に断ち切り、鬼は、住居の門戸から侵入することが出来ないだろう。自分から進んで疫病患者のいる家に入ったなら、疫病をもたらした鬼はそれを見て皆この家から走り去り、その身に病に染されることはないだろう。もし、一途に人に勧め、この経を書写し、受持し、読誦させるなら、殃を消し、害悪を退けるだろう。

もし唱えることができなくても、竹筒に呪経を詰めて門戸に安置するならば疫病をもたらす鬼は侵入しようと思わず、延年養寿して、大いにめでたい効果があるだろう」と。

阿難は、合掌して仏陀に「一体、この経を何と名付け、どのように奉持てばいいでしょうかと申し上げた。

仏陀は「この経の名を『却温神呪』としよう」と言われた。

仏陀がお説きになったことは、このようであった。天王・龍王・鬼神たちと、あらゆる大衆はこの『却温神呪』を聞いて歓喜し、礼拝して仏陀の教えを謹んで実行した。